

Think GAIA
For Life and the Earth



2008年度第2四半期 連結決算について

2008年 11月5日
三洋電機株式会社

2008年度第2四半期 連結決算概況

		実績	対計画	対前年
第2四半期累計 (4月～9月)	売上高	10,067	103.8%	102.5%
	営業利益	240	+ 100	30
	税引前利益	87	+ 37	177
	当期純利益	326	14	+ 167

単位：億円

事業領域別の年間見通しについて (補足説明)

エネルギー事業領域

(二次電池、ソーラー)

(単位:億円、連結)

	2008年度 上期実績	2008年度 年間			
		当初計画	見通し	対前年	対計画
売上高	2,767	5,000	5,530	113.2%	110.6%
営業利益	375	450	612	+54	+162

営業利益計画差異の主な要因

- ノートPCを中心にリチウムイオン電池の需要が堅調
- 太陽電池は引き続き欧州での販売が好調

エネルギー事業領域

二次電池事業



- 円筒形リチウムイオン電池の受注堅調
リチウムイオン電池の下期売上高対前年 増収

成長への布石

2010年度末までにリチウムイオン電池生産能力を
月産1億個を超えるレベルまで拡大

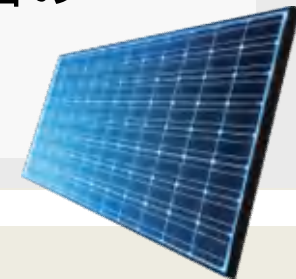
HEV事業への戦略投資の具体化



エネルギー事業領域

ソーラー事業

- 需要の堅調なドイツ等の欧州を中心に海外での積極的拡販 下期海外売上高対前年152%
- HIT太陽電池セル生産能力を、前年度比3割増の340MWに増強



成長への布石

薄膜太陽電池の早期事業化に向けた、新日本石油株式会社との協業プロジェクトの推進

エレクトロニクス事業領域

(デジタル、電子部品、半導体)

(単位:億円、連結)

	2008年度 上期実績	2008年度 年間			
		当初計画	見通し	対前年	対計画
売上高	4,650	9,800	9,340	94.5%	95.3%
営業利益	8	330	181	246	149

営業利益計画差異の主な要因

- デジタル事業におけるTV等の価格下落
- 電子部品(半導体含む)の価格下落による収益悪化

エレクトロニクス事業領域

デジタル事業

- デジカメ 高機能化・ムービーのラインナップ強化により競争力を高め、年間計画1,500万台の確保

- TV 主力の北米で販売チャネルの強みを活かし、買い替え需要を確実に獲得、黒字を維持

生産拠点の再編成により収益安定化を推進



エレクトロニクス事業領域

電子部品事業

■ 光ピックアップ

DVDプレーヤーの数量減も、コストダウンの推進で収益改善を図る



■ キャパシタ

ノートPC、ゲーム機などを中心とした堅調な需要を獲得
(下期売上高対前年105%)



エレクトロニクス事業領域

半導体事業

～ 事業の選択と集中を加速し、高付加価値商品への注力と
固定費削減効果により収益改善を目指す～



100億円レベルの損益分岐点の引き下げ

- 競争力のあるパワーデバイス分野へ経営資源を集中
 - ・開発投資・設備投資を集中
 - ・技術者を中心に人的リソースをシフト
- 固定費の削減
 - ・生産ラインの集約や海外工場の再編等の生産拠点統合
 - ・国内外販社効率化、海外物流拠点再編等の営業物流改革

エコロジー事業領域

(コマーシャル、白物家電)

(単位:億円、連結)

	2008年度 上期実績	2008年度 年間			
		当初計画	見通し	対前年	対計画
売上高	2,521	5,000	5,040	97.7%	100.8%
営業利益	2	90	29	41	61

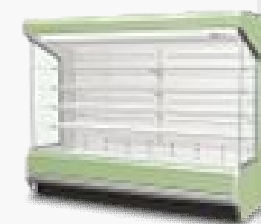
営業利益計画差異の主な要因

- 国内白物家電の流通改革等による収益改善
- 欧州での冷夏による家庭用エアコンの不振
- 景気悪化の影響を受けた業務用空調の不振

エコロジー事業領域

コマーシャル事業

- 業務用空調 国内リニューアル物件獲得、米国でのビル用マルチエアコン拡販 下期売上高は前年並確保
- コールドチェーン 国内の物流分野の大型物件獲得、高成長地域(中国・アジア)への拡販 (下期売上高対前年107%)
- メディコム 高付加価値・高成長の電子カルテの大幅増 (対前年150%)



エコロジー事業領域

白物家電事業

- 欧州家庭用空調の販社再編成により、重点市場への集中を加速
- 堅調な国内洗濯機市場に加え、中国・東南アジアを中心とした海外市場の需要獲得（下期売上高対前年122%）
- イオン株式会社との協業強化により、商品のラインナップを拡充（9月に9品目の新商品追加）



事業領域別の年間見通し(まとめ)



(単位:億円、連結)

事業領域		2008年度			
		当初計画	見通し	対前年	対計画
エネルギー 事業領域	売上高	5,000	5,530	113.2%	110.6%
	営業利益	450	612	+ 54	+ 162
エレクトロニクス 事業領域	売上高	9,800	9,340	94.5%	95.3%
	営業利益	330	181	246	149
エコロジー 事業領域	売上高	5,000	5,040	97.7%	100.8%
	営業利益	90	29	41	61
その他	売上高	400	290	+ 38	110
	営業利益	370	322	28	+ 48
合計	売上高	20,200	20,200	100.1%	(変更なし)
	営業利益	500	500	261	(変更なし)

将来の見通しに関する注意事項

このプレゼンテーションに掲載されている過去の事実以外の記述は、三洋電機の現在の計画、見通し、戦略などから予測した将来の業績に関する見通しであり、これらは、現時点で得られる情報をもとにして当社で経営判断したものであります。従いまして、取得する情報の正確性や信頼性について、保証を行うものではありません。これらの情報のみに全面的に依拠することはなさないようにお願いします。

業績見通しには、さまざまなリスクや不確実性などの変動要因を含んでおり、影響を与え得る重要な要因には次のようなものがあります。1)当社が取り組んでいる事業における経済情勢や資本市場の大幅な変動や消費動向の変化。2)国際的な事業展開を行ううえで米ドルまたはその他の通貨と円との為替レートの変動。3)各国市場における様々な貿易規制。4)急激な技術革新、市場競争、価格競争のなかで当社が新技術、新商品、サービスを提供できる能力、など。ただし、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものでなく、潜在的なリスクや不確実性を含んでおりますので、ご承知おきください。

SANYO